

平成20年度 環境技術実証事業
ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）
ワーキンググループ会合（第2回）議事要旨

1. 日時：平成20年9月2日（火） 第1部 10:00～10:40 第2部 10:40～11:40
2. 場所：鉄鋼会館8階803号室
3. 議題
 - －第1部（公開）－
 - (1) これまでの経緯と現状について
 - (2) 実績のある実証機関について
 - (3) 高反射率塗料の実証試験要領の概要について
 - (4) その他
 - －第2部（非公開）－
 - (5) 実績のない実証機関の選定について
4. 出席検討員：佐土原聡（座長）、足永靖信、近藤靖史、武田 仁、森川泰成、笠松正広
5. 配付資料
 - ・資料1 ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）ワーキンググループ会合（第1回）議事要旨及び議事概要（案）
 - ・資料2 実証機関応募書類（大阪府環境農林水産総合研究所）（委員限り）
 - ・資料3 実証機関応募書類（財団法人建材試験センター）（委員限り）
 - ・資料4 ヒートアイランド対策技術（高反射率塗料など）実証試験要領（案）
 - ・資料5 実証機関応募書類（財団法人日本塗料検査協会）（委員限り）
 - ・資料6 スケジュールについて

 - ・参考資料1 平成20年度ヒートアイランド対策技術（建築物外皮による空調負荷低減等技術）実証試験要領（平成20年7月22日制定版）
 - ・参考資料2 「NEW環境展」（平成20年9月18日（木）～20日（土））
 - ・参考資料3 「エコビルド2008」（平成20年10月1日（水）～3日（金））
6. 議事
 - －第1部－
 - ・第1部会議は公開で行われた。
 - (1) これまでの経緯と現状について（事務局からの報告）
 - ・前回会合（第1回WG会合）内容の確認。（資料1の説明。）
 - ・7月22日に環境省及び建材試験センターのHPにて実証試験要領（参考資料1）の公表と共に実証機関の公募（平成20年7月22日～8月1日）を行い、3機関応募があったことの報告。

- ・応募3機関の内2機関は実績のある実証機関（大阪府と建材試験センター）で、8月6日付けで環境省承認のもと選定したことの報告。
- ・応募3機関の内1機関は、実証機関として実績のない応募機関について、本日この後の非公開議事にて選定審議を行うことの説明。

(2) 実績のある実証機関の申請内容について（事務局からの報告）

- ・資料2, 3に基づいた大阪府と建材試験センターの申請内容の概要説明。

(3) 高反射率塗料の実証試験要領の概要について

- ・資料4に基づき、ヒートアイランド対策技術（高反射率塗料など）実証試験要領に関する事務局からの説明。
- ・試験項目中の「性能劣化の把握」は、屋外暴露前後の日射反射率、長波放射率、明度及び付着性により定量化した数値で示す。なお、屋外暴露は、建材試験センターの場合、同センター中央試験所（埼玉県草加市）で行う予定。（確認された事項）
- ・要領で示している明度は標準であり、実際の試験体の明度は別途測定する。（確認された事項）
- ・新規で計算対象とする体育館、工場（倉庫）各計算対象建物については、別途具体的モデルで示す。（確認された事項）
- ・同要領に示した計算対象建物は、最低1建物条件は行うものとし、申請者の選択とする。（確認された事項）
- ・実証機関ごとに実証方法が異ならないように、各実証機関は当該試験要領は、建材試験センターの実証機関（技術実証委員会）で策定されたものであるが、実証試験方法が大阪府など他の実証機関と異なることを避けるに基づき、同じ試験方法で実証を行う。（統一化するため、環境省と実証運営機関にフィードバックしたものとして扱う。（確認された事項）
- ・現在流通販売されている高反射率塗料の中には、他の断熱材に代わる「断熱塗料」として報道・流通されているケースもあり、今回の実証における断熱評価の扱い・位置付け等について別途検討を要する。（議論・課題となった事項）

(4) その他

- ・環境省より、参考資料2, 3を基に、ヒートアイランド対策技術に関連する展示会の紹介。
- ・今後のスケジュールについて、事務局より資料6に基づき説明。

－第2部－

- ・第2部会議は非公開で行われた。

(5) 実績のない実証機関の選定について

実証機関として実績のない応募機関（財団法人 日本塗料検査協会）に対し実証要領に基づきヒアリング・質疑を行い、選定審議を行った。その結果、実証機関として選定することで確認された。